

- 問1 宮崎県の農業統計において、2020年の品目別生産量で全国1位となっている作物はどれですか。この作物は宮崎平野を中心に盛んに栽培されています。(2023年 福島県公立入試 類似)
- きゅうり
 - さつまいも
 - てんさい
 - ねぎ
- 問2 鹿児島県に広く分布する「シラス台地」の土壌の性質として、現地の農業に最も大きな影響を与えている特徴はどれですか。(2024年 山形公立入試 類似)
- 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい
 - 川が運んだ土砂でできており、水を通しにくい
 - 粘土質で栄養分が豊富であり、稲作に非常に適している
 - サンゴ礁が隆起してできたため、アルカリ性が非常に強い
- 問3 宮崎県の農業や地形的特徴に関する説明として、背景や現状を正しく述べたものはどれですか。(2020年 滋賀公立入試 類似)
- シラス台地が広がり水持ちが悪い土地を活かして、食用鶏などの畜産業や、温暖な気候を利用した茶の栽培が盛んに行われている。
 - 夏の冷涼な気候を活かしたキャベツやレタスなどの高原野菜の栽培が中心であり、畜産業は小規模に留まっている。
 - 広大な平野部を利用した稲作の単作地帯であり、米の生産量が県内農業産出額の大部分を占めている。
 - リアス海岸の入り江を利用した真珠やカキの養殖が産業の柱であり、内陸部の畜産業は県北の一部に限られている。
- 問4 沖縄県などが含まれる南西諸島の伝統的な家屋には、敷地の周囲に石垣をめぐらせたり、屋根瓦の継ぎ目を白い漆喰(しっくい)で固めたりする工夫が見られます。このような工夫がなされている理由として、地域の自然環境をふまえて説明したものと最も適切なものはどれですか。(2020年 和歌山公立入試 類似)
- 冬に吹きつける冷たい北西の季節風による室温の低下を防ぐため
 - 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため
 - 夏の日差しが非常に強いので、石垣によって日陰を作り、室内の温度上昇を抑えるため
 - 火山活動が活発な地域であり、降灰による屋根の崩落や生活への影響を防ぐため
- 問5 福岡県の北九州市に関して、かつて官営八幡製鉄所が建設され重化学工業が発展したが、現在ではその産業構造に変化が見られる。この地域の現在の特徴的な取り組みとして最も適切なものはどれか。(2017年 北海道公立入試 類似)
- 公害克服の技術や経験を生かしたエコタウンの形成
 - 伝統的な繊維産業を中心とした地場産業の振興
 - 広大な平野を利用した大規模な稲作と野菜の抑制栽培
 - 周辺のリアス海岸を生かした真珠や魚介類の養殖
- 問6 北九州工業地帯は、明治時代に官営八幡製鉄所が建設されて以降、日本の重工業を支えてきました。この地域の産業構造の変遷と現状について述べた文として、正しいものはどれですか。(2019年 山形県公立入試 類似)
- 豊富な石炭資源を背景に、現在も鉄鋼業を中心とした金属工業の割合が製造品出荷額の過半数を占めている。
 - 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。
 - 瀬戸内工業地域と同様に、大規模な石油化学コンビナートが形成され、化学工業が主要な産業となっている。
 - 沿岸部の埋め立て地に大規模な製粉・製糖工場が集まり、食料品工業が産業の柱へと成長した。
- 問7 鹿児島県の大隅半島付近に広く分布する、火山活動による噴出物が積み重なってできた台地について説明したものと、最も適切なものはどれですか。(2022年 宮城県公立入試 類似)
- 灰白色の土に覆われており、水はけがよいので畑作や畜産が盛んに行われている。
 - 山地が沈降してできた複雑な海岸線を持ち、真珠やカキの養殖が盛んに行われている。
 - 火山の噴火によって形成された大規模な水田地帯となっている。
 - 川の流れによって運ばれた土砂が河口付近に堆積してできた、平坦で低く湿った土地である。
- 問8 日本の諸地域の統計において、海岸線の延長が2665kmと非常に長く、かつ隣接する府県の数が「1」となっている県について述べた文として、地理的な背景を踏まえた正しいものはどれですか。(2022年 熊本県公立入試 類似)
- 屋久島や奄美群島などの多くの離島を抱えているため、海岸線が長くなっている。
 - リアス海岸が発達しているため、隣接する県の数が増えている。
 - 県全体が広大な平野で構成されており、海に面した部分が多いためである。
 - 九州地方の中央部に位置し、周囲を海に囲まれた内陸島のような性質を持つためである。
- 問9 日本の品目別の食料自給率と小麦生産の実態について述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2021年 長野県公立入試 類似)
- 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。
 - 小麦は米と同様に自給率が非常に高く、国内の需要をほぼ賄うことができているため、九州地方の全県が収穫量で全国トップ10に入っている。
 - 近年、米の自給率は小麦と同程度の10%から20%まで急落しているが、それを補うために福岡県や熊本県といった九州地方での小麦増産が進められている。
 - 日本の小麦自給率は極めて低いため、国内での生産は北海道のみに限定されており、九州地方などの他の地域ではほとんど生産されていない。
- 問10 熊本県に位置する阿蘇山では、大規模な噴火によって地下のマグマが噴出した後、地表が陥没して「カルデラ」と呼ばれる地形が作られました。この地形の利用や特徴について説明したものと最も適切なものを選びなさい。(2016年 三重公立入試 類似)
- カルデラ内には広大な草原が広がり、牛や馬の放牧が行われている。
 - カルデラの急斜面を利用して、大規模な稲作や果樹園が展開されている。
 - カルデラの底部には常に水が溜まっており、巨大な湖としてのみ利用されている。
 - カルデラの周囲は火山灰が堆積したシラス台地となっており、サツマイモ栽培が盛んである。
- 問11 九州地方南部に位置する宮崎県の農業の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。農産物産出額の内訳や気候条件に着目して答えなさい。(2023年 長崎公立入試 類似)
- 温暖な気候を活かした畜産業が非常に盛んであり、県の農産物産出額のうち「畜産」が占める割合が約半分に達している。
 - 広大な平野を活用した稲作が中心であり、農産物産出額の大部分を「米」が占めている。
 - 冷涼な気候を利用した「抑制栽培」が盛んで、夏から秋にかけてキャベツやレタスを都市部へ出荷している。
 - 瀬戸内の温暖な気候を活かし、ブドウやモモなどの「果樹」の産出額が全国でもトップクラスである。
- 問12 沖縄県の人口動態を示した統計において、出生率が11.6、死亡率が8.1となっており、出生率が死亡率を大きく上回るデータが示されています。このような数値の背景にある、沖縄県の人口増加の主な要因を説明したものと最も適切なものはどれですか。(2018年 三重公立入試 類似)
- 出生率が全国的に見ても高く、死亡率を上回る自然的増加が続いているため
 - 他県から移住してくる高齢者が多いため、死亡率が全国で最も低くなっているため
 - 観光産業の発展により、県外からの労働者が転入し続ける社会的増加が主な要因であるため
 - 若年層の他県への流出が止まり、合計特殊出生率が急激に低下したため

答え合わせ・解説

問1	答え 1 きゅうり	宮崎平野では冬の温暖な気候を利用して、きゅうりの栽培が非常に盛んに行われています。選択肢にある「さつまいも」は隣の鹿児島県、「てんさい」は北海道が主な産地として知られています。宮崎県はこのきゅうりなどの生産において、全国でもトップクラスのシェアを誇ります。
問2	答え 1 非常に水はけが良く、地表に水が溜まりにくい	シラス台地は過去の火山活動による火砕流などの噴出物が積み重なって形成されました。この土壌は粒子が粗く「水を通しやすい（水はけが良い）」という特性を持っています。そのため、常に水を張る必要がある水田稲作には向かず、古くからサツマイモや茶などの畑作、そして畜産を中心とした農業が発展してきました。
問3	答え 1 シラス台地が広がり水持ちが悪い土地を活かして、食用鶏などの畜産業や、温暖な気候を利用した茶の栽培が盛んに行われている。	南九州に位置する宮崎県や鹿児島県には、火山灰が堆積してできたシラス台地が広く分布しています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には向きが悪いため、古くから畑作や畜産業が発展してきました。宮崎県ではこの土地条件を活かし、食用鶏（ブロイラー）や豚、肉用牛などの畜産が全国屈指の規模で行われており、さらに温暖な気候を利用した茶の生産も全国4位の規模を誇るなど、独自の農業形態を築いています。
問4	答え 2 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため	南西諸島は地理的に「台風の道」とも呼ばれる進路上に位置しており、毎年のように強い暴風雨に見舞われます。そのため、民家の周囲に防風壁としての石垣を築いたり、重い漆喰で屋根瓦を固定したりすることで、強風による被害を最小限に抑える建築様式が発達しました。選択肢にある積雪や火山灰への対策は、他の地域（豪雪地帯や火山周辺）で見られる工夫です。
問5	答え 1 公害克服の技術や経験を生かしたエコタウンの形成	北九州市はかつて激甚な公害に見舞われたが、市民・企業・行政の協力によりこれを克服した歴史を持つ。現在ではその技術やノウハウを生かし、廃棄物リサイクル施設などを集積させたエコタウン事業を展開し、環境産業都市としての発展を目指している。
問6	答え 2 近年は自動車工場などの進出が進み、金属工業に代わって機械工業の割合が最も高くなっている。	北九州工業地帯は、かつては筑豊炭田の石炭と中国からの鉄鉱石を利用した官営八幡製鉄所を中心に、金属工業が圧倒的な割合を占めていました。しかし、エネルギー革命による炭鉄の閉鎖や産業構造の変化を経て、現在は自動車産業を中心とした機械工業が発展しています。製造品出荷額の内訳でも、機械工業が約4割を占め、金属工業を上回る構成へと変化している点が重要な特徴です。
問7	答え 1 灰白色の土に覆われており、水はけがよいため畑作や畜産が盛んに行われている。	九州南部に広がるシラス台地は、火山活動の噴出物である灰白色の「シラス」という土の層で構成されています。この土壌は非常に水はけがよく、水を溜めることが難しいため、水田稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、あるいは肉用牛や豚などの畜産業が発展しました。
問8	答え 1 屋久島や奄美群島などの多くの離島を抱えているため、海岸線が長くなっている。	鹿児島県は、薩摩半島・大隅半島という2つの大きな半島のほかに、多くの有人・無人の離島を抱えています。海岸線の長さは島が多いほど増える傾向にあるため、このような統計結果となります。また、地理的な位置関係から、陸上で境界を接しているのは宮崎県のみという特徴があります。リアス海岸は海岸線を複雑にしますが、それが隣接県数の少なさ（1県）に直結する理由ではありません。
問9	答え 1 米の自給率は100%に近い水準を維持しているのに対し、小麦の自給率は10%から20%の間と低く、国内では北海道のほか、九州地方の福岡県や佐賀県などが主要な産地となっている。	日本の食料自給率は品目によって大きな差があります。主食である米は国内でほぼ自給できていますが、小麦は海外からの輸入に頼る割合が高く、自給率は10%から20%程度の低い水準にとどまっています。しかし、国内での生産も継続されており、広大な農地を持つ北海道が最大の産地であるほか、九州地方の福岡県、佐賀県、熊本県などは全国的に見ても非常に高い収穫量を誇る重要な産地としての役割を担っています。
問10	答え 1 カルデラ内には広大な草原が広がり、牛や馬の放牧が行われている。	阿蘇山のカルデラ内やその外輪山には広大な草原が形成されており、古くから畜産（放牧）が盛んに行われてきました。シラス台地は主に鹿児島県から宮崎県にかけて広がる地形で、阿蘇山そのものの特徴とは区別して理解する必要があります。
問11	答え 1 温暖な気候を活かした畜産業が非常に盛んであり、県の農産物産出額のうち「畜産」が占める割合が約半分に達している。	宮崎県は、鹿児島県とともに九州南部（南九州）を代表する畜産地帯です。肉用牛、豚、鶏などの飼育が非常に盛んで、農産物産出額における畜産の割合が極めて高いのが特徴です。また、冬でも温暖な気候を利用したビニールハウスによる野菜の「促成栽培」も盛んですが、米を中心とするのは福井県、果樹が目立つのは岡山県、冷涼な気候を活かした抑制栽培は岩手県などの東北や長野県の特徴であるため、これらと区別する必要があります。
問12	答え 1 出生率が全国的に見ても高く、死亡数を上回る自然的増加が続いているため	沖縄県は伝統的に出生率が高い傾向にあり、日本の多くの自治体で出生数が死亡数を下回る「自然的減少」が深刻化する中で、出生数が死亡数を上回る「自然的増加」を維持している稀な例です。問題文の統計値からも、死亡率に対して出生率が高いことが人口を押し上げる要因になっていることが読み取れます。沖縄県の人口問題を考える際は、長寿といったイメージに惑わされず、この「高い出生率による自然的増加」を正しく把握する必要があります。